

【東北大震災特別ボランティア】 “こころ支え合い”

2012年6月 宮城県女川町

2011年3月11日の「あの日」から1年3か月を経た2012年6月。

若者たちと同じことはできないが、何かできることはないかと過ごしていたシルバーカレッジを卒業した高齢者たちも多くおり、その気持ちを現地ボランティアセンターに橋渡しをしてくれた会員もいました。

「被災された現地では、仮設住宅などで暮らしておられる方も大変ですが、何かとつながりがあります。それに比べ、何とか自宅で過ごせておられる方々はどうしても孤立がちになり、寂しい状況に置かれている高齢者もたくさんおられますので、是非こころの支えとなるボランティアを希望したいと思います」。との返事が返ってきました。

それを受け、今回食文コース卒業生グループ「銀の匙」の有志がボランティアとして、【女川町の公民館へ出向き、“神戸の粉もん：お好み焼き”を一緒に作り、食べ、楽しく唄う集い」を企画された。

その話の中で「みんなが知ってる懐かしい歌を唄いたいののでハーモニカ伴奏をやって」と声がかかり同行させてもらったので、写真で紹介したいと思います。

事前に実施した確認作業 神戸市立ふたば学舎（地域人材支援センター）調理実習室



宮城県女川町公民館での交流スナップ



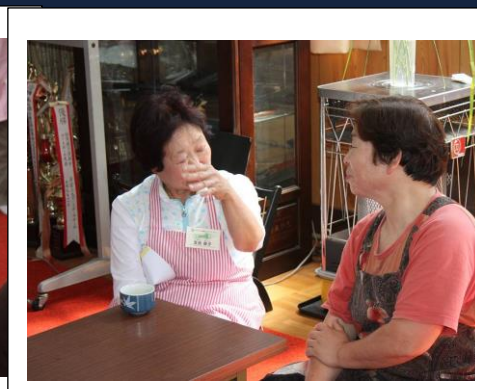
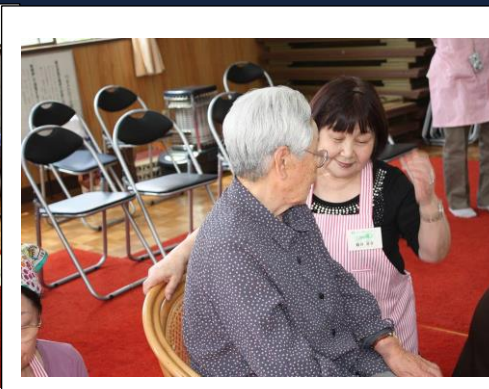
みなさん 大変お寂しい思いの中でお過ごしと思います。今日はひとときでも心安らげるようにと神戸からやってきました。共に神戸の粉もん料理を作り、食べ、唄って楽しみましょう。



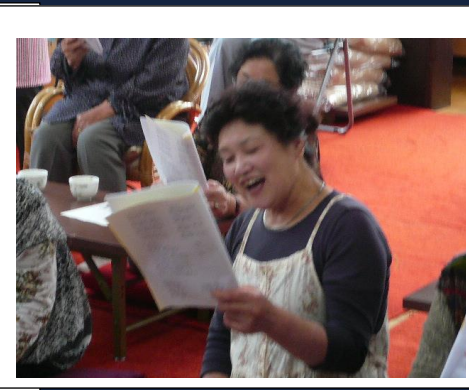
やっぱりみんなと一緒にわいわい言いながらの食事がいいわ～



阪神大震災の体験話を交えながら、みなさんのご苦労話の聞き役に。



何とか自宅で過ごせている人たちには、どうしても支援から取り残されているような寂しさもうかがわれた。



ここで少し懐かしい歌を唄ってところを休めましょう。やっとハーモニカの出番です。



女川町のみなさんと

翌日案内していただいた現地の様子…
15 か月を経た今も
この惨状が。



津波の破壊力の大きさに
愕然とした光景がまだまだ
残っていました。

